

研究計画概要書

研究課題名		助産学生の分娩期の実習到達度と職業的アイデンティティの関連
研究組織	研究責任者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻 健康発達看護学講座 教授 入山茂美
	研究分担者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専 博士課程(前期課程) 永橋亜希子
	研究事務局 (機関の名称・住所・ 連絡先)	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻 健康発達看護学講座 教授 入山茂美 〒461-8673 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号 TEL/FAX: 052-719-1574
研究の意義・目的		<p>助産師が社会で活躍するためには、助産師の職業的アイデンティティを高めることが重要である。高い職業的アイデンティティを持っている助産師は、職業継続意思が強くなることが明らかにされている。助産師だけでなく、職業的アイデンティティが強い助産学生も就労後の職業継続意思が強くなるということが報告されている。そのため、全国助産師教育協議会は、助産師としての職業的アイデンティティ形成を、助産師教育におけるミニマム・リクワイアメンツと位置づけている。</p> <p>助産学生の職業的アイデンティティを高める要因として、自身の助産師への適性を考慮して助産師を志望していること、職業への肯定的感情を持っていること、否定的・肯定的感情を伴う体験をすること、役割モデルが存在することなどが、報告されている。助産学生の場合、実習中に具体的なケアの方法について学び、自立した助産師のあるべき姿勢を知ることによって、助産師の職業的アイデンティティを考え始める。実習を通してさまざまな心的状況を示しながら助産学生は自己成長し、職業的アイデンティティ形成へのステップをたどることが報告されている。とりわけ、分娩介助は助産師の業務独占であり、分娩介助を中心する実習(以下、分娩介助実習)は、実習の中でも多くの時間を費やすことから、最も重要な学びであると考えられる。分娩介助は、講義・演習で身に付けた知識や技術が不十分だとわかるといった否定的感情を伴う体験とともに、分娩介助をした対象者が、自分に生命をゆだねてくれたという自尊感情や、自分が活かされているという満足感など、肯定的感情を伴う体験をもたらす、職業的アイデンティティが形成されていくことが、助産学生の語りの分析をした質的研究で明らかにされている。</p> <p>分娩介助実習の到達度についての実態調査報告は多数ある。多くの助産師教育機関では、分娩介助実習の分娩期のアセスメント能力や分娩介助に関する技術について、到達度の評価を行っており、全国助産師教育協議会は、各教育機関の分娩介助評価を報告している。しかし、分娩介助実習の到達度と職業的アイデンティティの関連を明らかにした、量的研究報告はない。</p> <p>そこで本研究は、助産学生の分娩介助実習到達度と職業的アイデンティティとの関連を明らかにすることを目的とする。本研究の仮説は、分娩介助実習における、分娩期のアセスメント能力や分娩介助に関する技術の到達度が高い場合に、職業的アイデンティティも高くなるとした。</p> <p>本研究の意義は、助産学生の分娩介助実習到達度と職業的アイデンティティとの関連を明らかにすることを目的としており、助産学生の職業的ア</p>

	<p>アイデンティティを高めるための、分娩介助実習において重要視すべき強化項目や、分娩介助実習に向けた学内演習内容の検討をするための、重要な基礎的資料となり得ると考える。</p>
<p>主な選択基準</p>	<p>東海地域と関西地域にある助産師養成機関（大学院・大学専攻科・大学・短大専攻科・養成所）30校に所属し、分娩介助実習終了後、約1カ月以内の時期にある学生。</p>
<p>研究方法（多施設共同研究の場合は、本学の役割・目標症例数も記載）</p>	<p>研究デザイン：横断研究 調査方法：無記名自己記入式質問紙法 データ収集方法： 助産師養成機関の教育責任者に研究協力の承諾を承諾書にて得る。対象者が分娩介助実習終了後1カ月以内の在学時に、研究分担者が訪問し、研究目的・方法などの説明を行う。口頭にて同意が得られた対象者に、質問紙と返信用封筒を手渡す。 対象者が無記名自己記入式質問紙を記入後に、後納郵便用の返信封筒に入れ投函をし、質問紙を回収する。 質問項目（52項目） 年齢、出産歴、一般学歴、助産師養成課程の種類、一般職歴、看護職歴、実習期間、助産学実習期間の形態、自己肯定感尺度10項目、助産学実習到達度14項目、職業的アイデンティティ尺度20項目</p>
<p>研究期間</p>	<p>実施承認日 ～ 2018年3月31日</p>
<p>インフォームド・コンセントの方法（説明を行う者等）</p>	<p>調査前に、研究分担者から助産師教育機関の責任者に対し、研究依頼を直接行う。教育機関責任者より研究協力の承諾が承諾書により得られた場合に、対象者へ研究目的・調査方法・質問内容等について文書を用いて口頭説明し、口頭で同意が得られた場合に質問紙を配布する。説明文書には、研究参加は自由意思に基づくものであり、不参加の場合でも不利益を被らないこと、いったん同意した場合でも、投函以前であれば撤回できることを記載する。また、無記名の質問紙を使用するため個人は特定されないこと、得られた情報は研究目的以外では使用しないこと、研究終了後に質問票はシュレッダーにて廃棄し、電子情報の保存は最長7年とし、論文を学術雑誌等に投稿し掲載された後に消去すること、論文投稿や学会発表では個人情報が含まれない解析後の結果のみ使用することについても記載する。研究や質問紙に対して、対象者から疑問などが生じた場合のために、問い合わせの受付先を提示し、研究責任者が対応できるようにする。質問紙の回収をもって、同意を得たものとする。</p>
<p>個人情報の管理体制（個人情報管理者、連結表の管理体制等）</p>	<p>無記名の質問紙を使用し、個人が特定されないようにする。回収した質問票や電子データ化した情報は、研究者のみが取り扱い、研究者が所有する施設できる戸棚で、厳重に管理する。</p>
<p>研究で収集した試料・同意書の保管場所、研究終了後の試料の取扱い</p>	<p>質問紙は、名古屋大学大学院医学系研究科内の鍵付き戸棚で保管する。情報を保管するパソコンやUSBメモリーはパスワードロックをかけ、盗難・持ち出し・損壊防止に努め、厳重に管理する。また、得られた情報は研究目的以外では使用しない。研究終了後に質問紙はシュレッダーにて廃棄する。電子情報の保存は最長7年とし、論文を学術雑誌等に投稿し掲載された後に消去する。論文投稿や学会発表では、個人情報が含まれない解析後の結果のみ使用する。</p>

5